

令和7年度第4回大和市社会教育委員会議定例会（第34期） 会議録

会議名（審議会等の名称）	令和7年度第4回大和市社会教育委員会議定例会（第34期）		
開催日時	令和8年2月17日（火曜日）午後3時30分～午後5時00分		
開催場所	文化創造拠点シリウス6階 生涯学習センター601講習室		
出席状況	委員	8人：大川委員、小早川委員、小森委員、齋藤委員、中山委員、藤倉委員、丸田委員、山岡委員	
	関係各課	2人：指導室主任指導主事、図書・学び交流課長	
	事務局	3人：健幸・スポーツ部図書・学び交流課学び交流係長、同係員2人 学び交流係（259-6104）	
	傍聴人数	0人	
公開・非公開の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開		
非公開・一部非公開の場合 はその理由			
審議又は検討経過 及び結果	<p>1 会議次第</p> <p>1 報告事項</p> <p>1) 大和市のコミュニティスクールについて</p> <p>2) 令和7年度社会教育委員に関する研修会等について</p> <p>2 検討事項</p> <p>1) 今後の調査・研究について</p> <p>3 その他</p> <p>2 審議及び結果</p> <p>主な内容は次のとおり</p> <p><開会></p> <p><事務局から配布資料の確認></p> <p><議長挨拶></p> <p><報告事項></p> <p>1 報告事項</p> <p>1) 大和市のコミュニティスクールについて</p> <p>（市）大和市のコミュニティスクールについて、前回の会議で丸田委員より質問があったので、本日は指導室担当職員に出席いただいているので、説明をお願いしたい。</p> <p><指導室から別紙資料に沿ってコミュニティスクールについて説明></p> <p>（議長）前回の会議で私から大和のコミュニティスクールの現状はどうなっているのかという話をした経緯もあり、今日来ていただいた。指導室からの説明を聞いて、質問や意見をお願いしたい。</p> <p>（委員）資料の中の「ラグビーボールからジグソーパズルへ」とはどのようなことか。</p> <p>（市）ラグビーボールのパスのような一方通行ではなく、子どもたちの個性が重なり合って一つのパズルを作っていくという発想である。</p> <p>（委員）学校運営協議会の委員はどのように決めるのか。</p>		

(市) 校長先生から推薦をいただき、教育委員会が任命するという立て付けである。地域住民、保護者、学校の校長・教頭先生、あるいは専門的な知識を持った方などで構成される。人数については、学校運営協議会規則で15人以内と定めている。

(議 長) やはりコーディネーターが一番大事ではないかと思う。地域をよく知るコーディネーターがいないと、学校運営協議会は機能しない。今のままだと学校評議員制度と全く変わらないと思う。コーディネーターが地域に出て、学校がどんな課題を抱えているか、どうしたらいいかを考えられるようにしていくために、コーディネーターの育成が必要だと思う。もう1つ、指導室には社会教育主事を配置して活用することを考えてもらいたいというのが私の要望である。

(委 員) 他市町村が進んでいる中で大和市が3割というのは、慎重に進めてきた結果だと思う。私も学校運営協議会に参加させていただいているが、委員の意見が具体的にどのように学校教育活動に活かされていくか、そこがまだ見えにくい。そこで社会教育主事の存在は重要である。教員出身で社会教育の事情もわかる人が橋渡しをすれば、学校側の事情も地域側の状況も分かるので、上手くマッチングできるのではないかと。運営に参画するのは少し敷居が高いかもしれないが、前向きに考えられるようになるといい。

(議 長) 具体的に現在どのような活動をしているのか分かれば1つでいいので教えてほしい。

(市) 昨年度は、避難生活や防災の備えについて、地域と話し合いが進んでいるという例がある。ただし、子どもと地域が交じって何か具体的な活動を活発に推進しているというところまでは至っていない。

(議 長) 防災というテーマであれば、例えば6年生が勉強したことを地域の人を呼んで発表するなど、具体的な活動がメインになるといいのだが。

(委 員) 昔、柳橋小学校では1泊の防災訓練をしていた。

(議 長) あれは自治会が中心になって実施していた。そこに学校側も関われば地域学校協働活動になる。現状、学校側は教頭先生が出るくらいで、なかなか主体的に関わっていないことが多い。ふるさとまつりも協働活動の1つだと思う。学校の特色として、これを行ったことで不登校の子がいなくなったとか、そういう成果が見えるような学校づくりをしていかなければいけない。本日準備していただいた資料は、基本的には文科省の写しのような形なので大和市の具体性が見えにくい。各学校が「うちはこのことをやっていきたい」というビジョンを作って取り組むことが大切である。

(市) 地域の特色や課題はそれぞれ違うので、そこを先生方と地域の方が話し合っていくのがまさにコミュニティスクールである。全校導入するにあたり、まず「コミュニティスクールとは何か」ということから話をしていかなければならない。地域の方々への説明もしっかりしていきたいと思っている。また、先ほど議長がおっしゃったとおり、核となるのはコーディネーターだと思っている。

る。地域をよく知り、学校のことも知っている人をどう位置付けるかが課題である。まだ構想段階なので、しっかり考えて導入したいと思っている。

(委員) 社会教育委員会議では、以前は家庭教育支援をテーマにしていたが、その中でも学校教育と社会教育の連携という話は出ていた。研修会等に参加しても他市の事例としてかなり頻繁に発表されている。それだけ今、必要に迫られていることだと実感している。本日の説明を聞き、具体的に形を作っていく必要があると思った。

(委員) コーディネーターを考える前に、「テーマを何にするか」によって適した人材は違ってくると思う。先ほどの防災の話であれば、例えば防災に力を入れているNPOのことを知っている人がコーディネーターになればいいのではないかと。地域と学校をつなげるため、社会教育委員がどのように関わっていくのかを考える必要があるのではないかと。

(委員) 思いつきだが、「町おこし」はテーマが決まっている。それと同じで「学校おこし」ということで、地域の特色を活かして何を売りにしていくか、何をアピールしていくかということを考えれば、テーマは絞られてくるのではないかと。

(委員) 新たなことを始めるとなると、先生方の「働き方改革」に逆行し、あれもこれもやってみようということになるのは少し違うのではないかと。それぞれの地域で既に取り組んでいる活動をピックアップし、「これもいいよね」というところからスタートの方がいいのではないかと。例えば、活性化会議のつきみ野中学校区では、職業人を呼んで職業体験講和を行っている。また地域の見守り活動も活発である。そのような良い取り組みを集約して検討してみるのもよいのではないかと。

(議長) 学校の先生も大変である。学校を少し開き、地域の人に力を借り、先生が抱え込んでいる部分を和らげることができれば、それが地域学校協働事業につながるのではないかと。併せて、個人的な意見ではあるが、学校運営協議会の中に社会教育委員を入れるような働きかけもしていただけるとありがたい。社会教育委員は深く地域で活動しておられる方である。そういう視野も必要ではないかと。

(市) 委員の皆様のご意見を伺い、期待されていると同時に大変さも感じた。これから構想を詰めていく段階なので、頂いたご意見を参考にさせていただきたい。またお力添えやご意見を賜る機会があると思う。

2) 令和7年度社会教育委員に関する研修会等について

(議長) 1月23日に神奈川県公民館大会が開催された。出席された委員より報告をお願いしたい。

(委員) 中井町からの事例発表があった。中井町は10年前に比べて人口減少が激しく、高齢化も進んでいる。その中で、地域での活動を通じて仲間づくりをし、健康で楽しく生きるという事例発表があ

った。講演では、今回の公民館大会の大きなテーマとなっている「ウェルビーイングの実現」についての話が日本女子大学准教授の荻野亮吾氏よりあった。ウェルビーイングとは、心と体と社会が良い状態であること。これは令和4年の文部科学省の答申でも出てきた言葉である。人生100年時代、学びを通じてどのように自分たちの幸せを感じるか。社会教育の役割として、「学校教育」と「社会教育」を分けるのではなく、お互いの価値観の違いを知り、学び合う必要性について話があった。また、柏市の事例では、商店街の場所を借りて「居場所」を作ったとのこと。そこには誰かが中心ということはなく、ただそこにいるだけでいい。一人でいても、誰かの話を聞いているだけでも心地よい場所。そういう「健康の基盤」となる居場所づくりについて、現役世代のアンケートなども交えて話があった。昔は地域のつながりが面倒くさいと言われていたが、今は最低限の関わりでいいから、自分の居場所として気持ちのいいものを求めていると感じた。

(委員) 大会では神奈川県公民館連絡協議会の表彰もあり、大和市からはつきみ野学習センターと桜丘学習センターが優良公民館表彰を受けていた。ウェルビーイングを高めるために、地域のことをみんなで考える活動が大切であるということ。また「学校教育にはゴールがあるが、社会教育にはゴールがない」という言葉。サークルや仲間づくりを通じて、社会教育委員（あるいは公民館）は「つなぎ役」として、人々が活躍できる「土壌づくり」の役割がある。そういった言葉が印象深かった。

(議長) 現在、神奈川県公民館連絡協議会に入っている自治体が減ってきており、12市町しかないと聞いている。だんだん公民館が消え、協議会も消えていくのかもしれないが、大和市は是非残ってほしい。

2 検討事項

1) 今後の調査・研究について

(市) 今後の調査研究について、前回の会議では時間が少なく十分な意見交換ができなかった。丸田議長からは、11月の関東甲信越静社会教育研究大会での他自治体の事例を踏まえ、大和市の課題について意見交換をしたいという話があった。本日は委員の皆様のご意見を伺いたい。

(議長) これまでは「家庭教育支援」をベースにテーマを決めて取り組んできた。行政の報告を聞くだけでなく、自分たちで調査研究し、それを大和市の生涯学習推進計画の中に落とし込んでいきたい。昨年11月に開催された関東甲信越静社会教育研究大会に出席されて感じたことなどを出していただき、これから何について調査研究をしていくか決めていきたい。

(委員) まずは地域課題を把握することが必要ではないか。家庭教育支援も元々は「大和市は家庭教育支援をもう少しやった方がいいのではないか」というところから始まった。今は具体的に何が課題なのか、自治会、PTA、あるいは多文化共生の問題など、どのよ

うな問題があるか把握するところから始めてみるのはどうか。

(委員) 地域という点で考えると、自治会の人数が減っていたり、PTAの求心力が低くなっているということを知ることから始めないと、取り組むべき課題は見えてこないのではないか。

(委員) 案として2つある。1つは、これまでやってきた「家庭教育支援」の継続である。若い母親達が、子どもとの接し方が分からないと悩んでいる。登校班に混ざれない子も増えている。保護者へのアプローチはまだやれることがあるのではないかなと思う。もう1つは、先ほどのコミュニティスクールの話である。令和9年度に向けて準備が進む中で、社会教育委員としてサポートできることはないか。地域活動のサークル情報などを整理しておく、いざ動き出した時に役立つのではないかなと思う。

(委員) 学校運営協議会が始まると、学校の先生の負担も気になる。先日、神奈川県教育長の話を知ることがあった。参加者は少なかったが、学校改革について熱心に話されていた。先生は今、保護者対応や、夜遅くの電話対応などで非常にストレスを抱えている。留守番電話の設定一つでクレームが減り、先生が子どもに向き合えるようになったという事例もあるようである。私たちが地域の中で何かをやる時に、先生の大変さを理解し、特定の団体に負担が偏らないよう、みんなが関われる仕組みができればよいのではないかなと思う。

(委員) 地域が見えないという点について、どうやったら地域を活用できるのか、取っかかりが見えないのが課題だと思う。また、外国人の問題も地域社会が不安定化する要因になっているかもしれない。社会教育の場でも高齢化が進んでいて、講座を開いても若い人が来ない。定年後間もない世代が社会教育に関わるきっかけがない。定年退職後の就職活動などで忙しいのかもしれないが、その上の世代の人たちが上手く繋いでこなかったのかもしれない。

(委員) 私はマンションに住んでいて、月に一度、高齢者の方を集めてお話し会をしている。一人で行くのは嫌だという方もいるので、声をかけ、外に出て会話をするように促し、マンションの中で孤立しないよう心がけている。また、歌のサークルもやっているが、外に出て顔を合わせて楽しむ場所を作ることが大切だと思っている。

(委員) これまでの「家庭教育支援」を継続したい。これまでの取り組みでは最終的に提言書を作成したが、次はそれを「具現化」するための仕掛け作りを考えたい。例えば、自然との出会いを通じて教育のあり方を考えるとか。もっと広く保護者や子どもたちに具体的に役立つような、仕掛け作りを考えていきたい。

(議長) 家庭教育支援については、「理念」は私たちが考え、「具体的な施策」は行政が考える。その役割分担は必要である。行政の仕事に私たちが突っ込みすぎるのはよくないが、サポートはしていくというのがよいのではないかな。

皆さんの意見をまとめると、

1. 地域課題の把握
2. 家庭教育支援の深化（理念を政策に繋げるための提言）
3. 地域学校協働活動（コミュニティスクール）への参画とサポート
この3つが大きな柱になるかと思う。

自治会の問題、外国人の問題、これらも「地域課題」の中に含まれるのではないか。まずは地域課題を拾い出すことから始めたい。併せて、本日配付された冊子「神奈川の社会教育委員活動（社教連会誌）」の中の「市町村から」について、大和市の取り組みについて原稿を書かなければならない。6月末が原稿提出の締め切りなので、本日は話したようなテーマについて、大和市ではこう考えて動いているという内容を、私の方で書かせていただき、内容を皆さんに確認していただきたい。それまでに方向性は決めておきたい。

（市） ご意見を共有できたと思う。本日出た意見を受けて、次回の4月会議に向けて事務局側でも資料を準備させていただきたい。

（議長） では、4月の会議ではもう少し突っ込んだ形で話し合いをしたい。コミュニティスクールについて、地域課題について、そして家庭教育支援で何ができるかについて皆さんそれぞれで考えておいてほしい。本来、社会教育委員は個人で研究し、行政に提言ができるが、大和市では「社会教育委員会会議」という形を活かしてテーマを決め、提言に向けて調査研究をしていきたい。

（委員） 最後にもう1つよいか。地域課題に関連して、学校に老人ホームを併設したり、学校の空き教室を地域の居場所にしたりしている例もある。今の時代、セキュリティの問題もあるが、昔のように怖いおじいちゃんがいて社会のルールを学べたような、そういう顔見知りの関係が作れる「居場所」を学校の中に作れたらいいのではないかと思う。

（議長） それがまさに地域学校協働活動である。特色ある学校づくりの中で、地域の憩いの場を作る。コーディネーターと協議会で話し合っって作っていく。空き教室の活用や、子ども食堂のような居場所づくりをする。そのようなシステムを地域学校協働活動に落とし込んでいけるとよいのではないか。

本日の議題は以上となる。次回会議の日程について事務局より説明をお願いしたい。

（市） 次回、令和8年度第1回定例会を4月に行う予定である。

- ① 20日（月）午後3時00分から
- ② 21日（火）午後3時00分から
- ③ 22日（水）午後3時00分から
- ④ 23日（木）午後3時00分から
- ⑤ 27日（月）午後3時00分から
- ⑥ 28日（火）午後3時00分から

以上の候補日から選んでいただきたい

（議長） 全員出席できる27日（月）としてよいか。

（一同） 異議なし。

	<p>以上で議事を終わる。</p> <p><閉会></p>
会議資料	<ul style="list-style-type: none">・ 令和7年度第4回社会教育委員会議定例会（第34期）次第・ 第34期大和市社会教育委員名簿・ コミュニティスクールについて・ 令和7年度社会教育委員に関する研修会等